参考資料１

Ⅰ　現行の一般入試（P.1～6）

Ⅱ　現行の推薦入試（P.7～10）

Ⅲ　全国の入試制度（令和３年度入試、全日制）（P.11～22）

Ⅰ　現行の一般入試

1　主な経緯

<table>
<tr><th>年度（西暦）</th><th>内　　容</th></tr>
<tr><td>昭和39（1964）</td><td>・面接について、一部の学校で開始（県教委の事前承認が必要）。</td></tr>
<tr><td>昭和42（1967）</td><td>・学力検査は国語、社会、数学、理科、英語の５教科各100点（２日間）。</td></tr>
<tr><td>昭和47（1972）</td><td>・英語でヒアリングテスト（現リスニングテスト）導入。</td></tr>
<tr><td>昭和50（1975）</td><td>・学力検査を５教科各60点、検査日を１日に変更。</td></tr>
<tr><td>昭和59（1984）</td><td>・適性検査について、体育科で開始。</td></tr>
<tr><td>昭和60（1985）</td><td>・面接について、全高校での実施開始（選抜資料としない）。</td></tr>
<tr><td>昭和62（1987）</td><td>・面接を選抜の総合判定の資料に追加。
（得点化はしない。総合判定の資料として扱う。）</td></tr>
<tr><td>平成２（1990）</td><td>・調査書に中学１年の成績を記載（得点化はしない）。</td></tr>
<tr><td>平成10（1998）</td><td>・理数科、国際関連学科で学力検査点の傾斜配点を導入。</td></tr>
<tr><td>平成16（2004）
（推薦入試の廃止）</td><td>・学力検査を５教科各100点、検査日を２日間に変更（検査日の１週間程度前倒し）。
１日目：学力検査（５教科）、自己アピールカードの記入
２日目：面接、英語応答試験
・英語による応答試験の導入。
・面接を得点化（自己アピールカードの導入）。
<table>
<tr><td>学力検査</td><td colspan="2">500</td><td rowspan="5">1000</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の中学２、３年生の評定）</td><td>330</td><td rowspan="4">500</td></tr>
<tr><td>面接</td><td rowspan="3">170</td></tr>
<tr><td>小論文・作文　※一部</td></tr>
<tr><td>適性検査（実技等）　※一部</td></tr>
</table>
・異なる評価尺度での選抜を行うために、ＡＢＣ選考を導入。
Ａ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　５：５
※　Ａ選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。
Ｂ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　３：７、２：８又は１：９
Ｃ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　７：３、８：２又は９：１
※　Ｂ、Ｃ選考の配点比は各校で決定。
・選抜は、次の①～④から各学校が選択した方法により実施。
<table>
<tr><td>①</td><td>Ａ選考50%　→　Ｂ選考40%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>②</td><td>Ａ選考60%　→　Ｂ選考30%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>③</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考20%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>④</td><td>Ａ選考80%　→　Ｂ選考10%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>平成19（2007）
（推薦入試の導入）</td><td>・検査日を１日に変更。
・英語による応答試験の廃止。
・自己アピールカードの事前提出開始。
・配点を見直し、面接、小論文・作文、適性検査を170点から70点に変更。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><td>学力検査</td><td colspan="2">500</td><td rowspan="5">900</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の中学２、３年生の評定）</td><td>330</td><td rowspan="4">400</td></tr>
<tr><td>面接</td><td rowspan="3">70</td></tr>
<tr><td>小論文・作文　※一部</td></tr>
<tr><td>適性検査（実技等）　※一部</td></tr>
</table>
・ＡＢＣ選考の見直し。
Ａ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　５：４
※　Ａ選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。
Ｂ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　３：７、２：８又は１：９
Ｃ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　７：３、８：２又は９：１
※　Ｂ、Ｃ選考の配点比は各校で決定。
・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。
<table>
<tr><td>①</td><td>Ａ選考50%　→　Ｂ選考40%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>②</td><td>Ａ選考50%　→　Ｂ選考30%　→　Ｃ選考20%</td></tr>
<tr><td>③</td><td>Ａ選考60%　→　Ｂ選考30%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>④</td><td>Ａ選考60%　→　Ｂ選考20%　→　Ｃ選考20%</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考20%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考10%　→　Ｃ選考20%</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>Ａ選考80%　→　Ｂ選考10%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>平成28（2016）</td><td>
・調査書の中学１年の成績を得点化。
・配点の見直し。
<table>
<tr><td>学力検査</td><td colspan="2">500</td><td rowspan="5">1000</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の中学１～３年生の評定）</td><td>440</td><td rowspan="4">500</td></tr>
<tr><td>面接</td><td rowspan="3">60</td></tr>
<tr><td>小論文・作文　※一部</td></tr>
<tr><td>適性検査（実技等）　※一部</td></tr>
</table>
・ＡＢＣ選考の見直し。
Ａ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　５：５
※　Ａ選考では普通科以外で数学、英語、理科の傾斜配点可。
Ｂ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　３：７
Ｃ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　７：３
・選抜は、次の①～⑦から各学校が選択した方法により実施。
<table>
<tr><td>①</td><td>Ａ選考100%</td></tr>
<tr><td>②</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考30%</td></tr>
<tr><td>③</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考20%　→　Ｃ選考10%</td></tr>
<tr><td>④</td><td>Ａ選考70%　→　Ｂ選考10%　→　Ｃ選考20%</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>Ａ選考70%　→　Ｃ選考30%</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>Ａ選考70%　→　Ｃ選考20%　→　Ｂ選考10%</td></tr>
<tr><td>⑦</td><td>Ａ選考70%　→　Ｃ選考10%　→　Ｂ選考20%</td></tr>
</table>
・定時制成人枠を導入。
</td></tr>
</table>

２　一般入試に係る状況

（１）志願倍率の低下

・全県の志願倍率は低下傾向にあり、平成 27 年度入試以降１倍を下回っている状態。

・各高校及び学科の志願倍率について、１倍を下回っている高校及び学科が約８割の状態。

・各学科の検査について、数学・英語・理科の傾斜配点、小論文又は作文といった多様な方法で実施する学科がごく一部となっている状態。

・各学科の選抜方法は、Ａ選考のみとする学科の割合が約６割となっており、異なる評価尺度で選抜を行う学科は減少傾向。

（２）全受検者に実施している面接

・１人当たりの面接時間は、全高校の平均で約４分で、小規模校よりも中・大規模校が短く、約３分半の状態。

・志願者が作成する資料（自己アピールカード）の作成指導が中学校にとって大きな負担となっている状態。

・受検者は周到な準備で望むため、各受検者の評価には差が出にくい状態。

（３）県教育委員会でのスクール・ミッション策定、各高校でのスクール・ポリシー策定

・令和３年３月に学校教育法施行規則が一部改正され、学校設置者が各高校の存在意義・社会的役割等を明確化し再定義することとなった（**スクール・ミッション**）。

・令和３年10月に県教育委員会は「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031（岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション）」を策定。

・各高校は、地域や関係機関と連携しながら、令和４年度中に入口から出口までの教育活動の指針を定め、公表（**スクール・ポリシー**）。

・スクール・ポリシーは、「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」の３つの方針。

【一般入試に関するデータ】

1　志願者数、志願倍率等（全日制）

年度（西暦）	志願者数	志願倍率（調整後）	志願倍率１倍未満		学校数及び学科数
			学校数（割合）	学科数（割合）	
平成16（2004）	12,969	1.04	36校（46.8%）	66学科（43.1%）	77校153学科
平成17（2005）	12,385	1.04	40校（51.9%）	69学科（46.0%）	77校150学科
平成18（2006）	12,167	1.04	37校（49.3%）	61学科（41.5%）	75校147学科
平成19（2007）	11,297	1.06	36校（48.6%）	53学科（38.1%）	74校139学科
平成20（2008）	10,520	1.05	31校（46.3%）	55学科（42.6%）	67校129学科
平成21（2009）	10,268	1.04	30校（46.2%）	45学科（35.7%）	65校126学科
平成22（2010）	10,252	1.05	27校（42.2%）	56学科（44.8%）	64校125学科
平成23（2011）	9,601	1.01	37校（57.8%）	61学科（48.8%）	64校125学科
平成24（2012）	9,373	0.99	36校（56.3%）	64学科（51.2%）	64校125学科
平成25（2013）	9,162	0.98	39校（60.9%）	68学科（54.4%）	64校125学科
平成26（2014）	9,187	1.00	35校（55.6%）	66学科（53.2%）	63校124学科
平成27（2015）	8,627	0.93	42校（66.7%）	79学科（63.7%）	63校124学科
平成28（2016）	8,753	0.94	43校（68.3%）	78学科（62.9%）	63校124学科
平成29（2017）	8,506	0.92	43校（68.3%）	75学科（60.5%）	63校124学科
平成30（2018）	7,977	0.90	44校（69.8%）	78学科（63.9%）	63校122学科
令和元（2019）	7,642	0.89	46校（73.0%）	81学科（67.5%）	63校120学科
令和２（2020）	7,088	0.87	47校（75.8%）	87学科（74.4%）	62校117学科
令和３（2021）	6,590	0.82	49校（79.0%）	95学科（81.2%）	62校117学科

2　平成16（2004）年度入試から令和４（2022）年度入試の検査内容の推移（全日制）

検査内容	H16	H19	R4
数学・英語・理科の傾斜配点	６学科（ 3.9%）	９学科（ 6.5%）	２学科（ 1.7%）
小論文又は作文	60学科（39.2%）	３学科（ 2.6%）	０学科（ 0.0%）
適性検査	８学科（ 5.2%）	６学科（ 4.3%）	５学科（ 4.3%）

※　平成16年度入試から導入。

※　検査日は、平成16～18年度入試は２日間、平成19年度入試からは１日間。

３　平成28（2016）年度入試から令和４（2022）年度入試の選抜方法の推移（全日制）

選抜方法		H28	R4
①	Ａ選考100％	34学科（27.4％）	72学科（61.5％）
②	Ａ選考70％　→　Ｂ選考30％	15学科（12.1％）	13学科（11.1％）
③	Ａ選考70％　→　Ｂ選考20％　→　Ｃ選考10％	48学科（38.7％）	20学科（17.1％）
④	Ａ選考70％　→　Ｂ選考10％　→　Ｃ選考20％	11学科（ 8.9％）	３学科（ 2.6％）
⑤	Ａ選考70％　→　Ｃ選考30％	６学科（ 4.8％）	５学科（ 4.3％）
⑥	Ａ選考70％　→　Ｃ選考20％　→　Ｂ選考10％	10学科（ 8.1％）	４学科（ 3.4％）
⑦	Ａ選考70％　→　Ｃ選考10％　→　Ｂ選考20％	０学科（ 0.0％）	０学科（ 0.0％）

※　平成 28 年度入試から現行の方法。

※　配点及びＡＢＣ選考

<table>
<tr><td>学力検査</td><td colspan="2">500</td><td rowspan="5">1000</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の中学１～３年生の評定）</td><td>440</td><td rowspan="4">500</td></tr>
<tr><td>面接等</td><td rowspan="3">60</td></tr>
<tr><td>小論文・作文　　※一部</td></tr>
<tr><td>適性検査（実技等）　※一部</td></tr>
</table>

Ａ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　５：５

Ｂ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　３：７

Ｃ選考は、学力検査：調査書、面接等　＝　７：３

４　令和２（2020）年度入試における面接方法等（全日制）

学級数	面接方法 （集団又は個人）	１人当たりの 面接時間（平均）	開始時刻 （平均）	終了時刻 （平均）
小規模校 （１～３学級、30校）	個人23校、集団７校	約４分55秒	15：02	16：25
中・大規模校 （４～７学級、32校）	個人４校、集団28校	約３分26秒	15：04	16：47
合計 （62校）	個人27校、集団34校	約４分09秒	15：03	16：36

※　令和２年度入試における理科の検査終了時刻　14：40

※　令和３、４年度入試では、新型コロナウイルス感染症対策のため面接を実施していない。

５　令和３年６月に県内公立中学校長及び県立高等学校長を対象に実施したアンケート調査結果のうち、一般入試の面接に関する部分（第１回委員会資料から再掲）

※　アンケートで最も「変更すべき」の割合が大きかった項目

回答数（割合）

	中学校	高等学校
現在のままでよい	94（69.6%）	43（66.2%）
変更すべき	41（30.4%）	22（33.8%）

「変更すべき」の主な内容

中学校	・自己アピールカードの作成指導が中学校の負担となっており、負担に見合った面接が行われていないと感じるため、面接の廃止、自己アピールカードの廃止、又は自己アピールカードを当日記入するなど見直すべき。(26) ・面接で十分なため、自己アピールカードを廃止すべき。（９） ・受検者の志望動機を確認することは必要と考えられるため、リモートでも面接を実施するべき。（２）
高等学校	・１人当たりの面接時間は３分程度であり、受検生は周到に準備して臨むため、評価に差が出ない現状である。また、面接室ごとの公平性確保が難しいこともあり、感染症対策の観点からも、廃止、実施を学校判断、実施しても得点化しない、自己アピールカードの廃止など行うべき。(21) ・調査書、自己アピールカードで受検生を把握できるため、廃止すべき。

Ⅱ　現行の推薦入試

１　主な経緯

年度（西暦）	内　　容
昭和53（1978）	・農業、工業、商業、水産、家庭学科で開始（定員の10%）。
昭和57（1982）	・定員の20%に割合拡大。
昭和59（1984）	・体育科で開始（体育科は定員の30%）。
昭和61（1986）	・理数科、英語科で開始（理数、体育、英語科は定員の30%）。
昭和62（1987）	・普通科の職業に準ずるコースで開始。 ・全学科について、割合を定員の20又は30%に変更。
昭和63（1988）	・普通科の芸術、外国語、体育学系で開始。
平成元（1989）	・普通科のうち希望校で開始（定員の５%程度）。
平成４（1992）	・普通科の全校で開始。 【募集定員】 普通科…定員の５%程度 普通科の芸術・外国語・体育情報系学系・コースは、定員の20又は30% 専門学科…定員の20又は30%
平成６（1994）	・割合の拡大。 【募集定員】 普通科…定員の10%以内 普通科の芸術・体育学系・コース、体育科は、定員の50%以内 専門学科…定員の20又は30% 総合学科…定員の20%以内
平成８（1996）	・普通科で定員の10%、体育科で定員の50%に割合の固定化。 ・総合学科で、定員の30%に割合拡大。
平成11（1999）	・総合学科で、定員の20又は30%に割合の弾力化。
平成16（2004）	**・推薦入試を廃止し、新しい入学者選抜（ＡＢＣ選考）を導入。** ※　旧制度では、高校側が望んでいる生徒像や推薦基準が明示されず、中学校が志願者を推薦するに当たって困難な面も見られた。 ※　推薦入試に代わるものとして、調査書点重視のＢ選考（学力検査：調査書等が１：９～３：７で定員の１～２割を選抜）の導入。
平成19（2007）	**・現行の推薦入試の開始。** 【応募資格】 ・県内中学校等を卒業見込みの者又は前年度卒業者 ・スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収める者 ・各高校の推薦基準を満たす者 【募集定員】 定員の10%以内。ただし、普通科の体育・芸術系、体育科は20%以内。
平成20（2008）	・志願先に２つ以上の学科がある場合、第２・第３志望も可能に変更。

平成21（2009）	・体育・芸術系・コース、体育科で、定員の50％以内に割合拡大。
平成28（2016）	**・応募資格Ｂとして、「将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者」を追加（従来の応募資格は、応募資格Ａ）。** 応募資格Ａ：スポーツ、文化・芸術等において顕著な実績を持つ者 応募資格Ｂ：将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者 ・推薦入試合格者を対象とした学力調査を一般入試検査日に実施開始。
令和２（2020）	・専門学科・総合学科で応募資格Ａ及びＢの両方で募集する場合、農業学科は定員の20％以内、農業学科以外は15％以内に割合拡大。

２　推薦入試に係る状況

（１）志願倍率の低下、志願者が０名の学校・学科の増加

・志願倍率は、平成25年度以降は減少傾向で、平成26年度以降は１倍を下回っている状態。

・志願者が０名の学校及び学科の割合は、増加傾向で、いずれも全体の約２割。

・各高校が示す推薦基準は、要件が多様化及び拡大化の傾向、また、部活動等実績の水準は低下の傾向。

（２）従来の部活動の在り方の見直し

ア　「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（平成30年策定、令和元年改定）

・平成30年に「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（スポーツ庁）、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（文化庁）に基づくもの。

・活動時間及び休養日の設定基準を示し、各学校が「学校の部活動に係る活動方針」を策定することとした。

・令和元年の改定で、部活動は自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加を義務付けたり、活動を強制したりしないこと、体罰・暴言等の根絶を図ることを明記。

・県内中学校及び高校で、部活動参加の任意化が進められている。

イ　「いわての中学生のスポーツ・文化活動のこれから」（岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議）

・令和３年３月に岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議が県教育委員会に対して行った提言。

・県教育委員会の役割・取組は、「岩手県における部活動の在り方に関する方針」（上記ア）の内容検討及び再改定、公立高校の推薦入試の在り方について検討など。

・学校に求められる役割・取組は、自主的・自発的な部活動を推進。具体的には、活動方針や部活動の意義について、また、「所属しない」という選択肢があることについて生徒・教員・保護者での共通理解など。

（３）県教育委員会でのスクール・ミッション策定、各高校でのスクール・ポリシー策定

・令和３年３月に学校教育法施行規則が一部改正され、学校設置者が各高校の存在意義・社会的役割等を明確化し再定義することとなった（**スクール・ミッション**）。

・令和３年10月に県教育委員会は「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031（岩手県立高等学校に関するスクール・ミッション）」を策定。

・各高校は、地域や関係機関と連携しながら、令和４年度中に入口から出口までの教育活動の指針を定め、公表（**スクール・ポリシー**）。
・スクール・ポリシーは、「育成を目指す資質・能力に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」、「入学者の受入れに関する方針」の３つの方針。

【推薦入試に関するデータ】

１　志願者数、志願倍率等

年度（西暦）	志願者数	志願倍率	志願者０名の学校数及び学科数		推薦入試を計画した学校数及び学科数
			学校数（割合）	学科数（割合）	
平成19（2007）	1,131	1.04	11（15.7%）	19（14.3%）	70校133学科
平成20（2008）	1,118	1.04	7（10.6%）	16（12.6%）	66校127学科
平成21（2009）	1,092	0.95	9（14.1%）	19（15.3%）	64校124学科
平成22（2010）	1,138	0.99	8（12.5%）	13（10.4%）	64校125学科
平成23（2011）	1,151	1.03	9（14.1%）	19（15.2%）	64校125学科
平成24（2012）	1,067	0.96	7（10.9%）	20（16.0%）	64校125学科
平成25（2013）	1,141	1.03	7（10.9%）	12（ 9.6%）	64校125学科
平成26（2014）	1,098	1.00	5（ 7.9%）	19（15.3%）	63校124学科
平成27（2015）	947	0.86	11（17.5%）	30（24.2%）	63校124学科
平成28（2016）	1,036	0.95	8（12.7%）	27（21.8%）	63校124学科
平成29（2017）	1,004	0.92	8（12.7%）	23（18.5%）	63校124学科
平成30（2018）	958	0.91	12（19.0%）	29（23.8%）	63校122学科
令和元（2019）	978	0.96	13（20.6%）	25（20.8%）	63校120学科
令和２（2020）	914	0.86	13（21.0%）	27（23.1%）	62校117学科
令和３（2021）	886	0.82	11（17.8%）	26（22.2%）	62校117学科

※　「志願者０名」の学校数、学科数の割合は、それぞれ推薦入試を計画した学校数、学科数に対する割合。

２　平成22（2010）年度入試から令和２（2020）年度入試の各高校が示す推薦基準の推移

※　応募資格Ａ「スポーツ、文化・芸術活動、特別活動（生徒会活動等）、その他校内外の活動（ボランティア活動、地域貢献活動等）において顕著な実績を持つ者」等の推移

項　　目		学校数（%）
募集定員に対する割合 （５%、10%等）	拡　大	10（16.1%）
	変化なし	51（82.3%）
	縮　小	１（ 1.6%）
部活動等実績の水準 （県大会ベスト８以上、地区大会３位以上等）	緩　和	18（29.0%）
	変化なし	35（56.5%）
	厳格化	９（14.5%）
要件 （対象とする部活動の拡大・縮小、生徒会活動やボランティア活動の追加・削除、応募資格Ｂの追加等）	拡　大	43（69.4%）
	変化なし	15（24.2%）
	縮　小	４（ 6.5%）

３　応募資格Ｂ「将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者」の実施校数・志願者数の推移

年度（西暦）	志願者数	実施校数	実施学科数
平成28（2016）	26	13	26
平成29（2017）	34	13	28
平成30（2018）	21	13	27
令和元（2019）	29	12	26
令和２（2020）	48	14	32
令和３（2021）	68	16	37
令和４（2022）		18	45

※　平成 28 年度入試から導入。

※　令和２年度入試から、専門学科・総合学科で応募資格Ａ及びＢの両方で募集する場合、農業学科は定員の 20%以内、農業学科以外は 15%以内に割合拡大。

※　合格者数は公表していない。

Ⅲ　全国の入試制度（令和３年度入試、全日制）

１　全国の入試制度の傾向

（１）入試日程等

ア　検査の実施回数（二次募集を除く）

１回	２回	３回
12	33	2

イ　検査日の総日数

１日	２日	３日	４日	５日
1	12	26	7	1

（２）推薦入試・特色入試

（一般入試とは別に募集・検査・合格発表を行う入試、又は、一般入試とあわせて募集・検査を行うが一般入試とは異なる選抜方法で行う入試）

ア　実施状況

一般入試とは別に実施			一般入試と同時に実施
中学校長の推薦を要する入試のみ	中学校長の推薦を要しない入試のみ	両方	
15	16	4	12

イ　実施時期

一般入試とは別に実施				一般入試と同時に実施
１月		２月		
中旬	下旬	上旬	中旬	
2	6	24	4	12

ウ　一般入試とは別に実施する場合の検査日数

１日	２日	３日以上
22	12	1

エ　中学校長の推薦を要しない入試の検査・選抜内容（28府県で実施）

面接	調査書	実技	学力検査	作文・小論文	プレゼン・自己PR	口頭試問
25	22	20	20	19	11	3

（３）一般入試

ア　検査日の日数

１日	２日	３日以上
13	32	2

イ　面接の実施

全員に実施	学科により実施	実施しない
18	27	2

ウ　学力検査：調査書（評定）の取扱い

全て統一	定員の一部で学校ごと	定員の全部で学校ごと
20	10	17

２　各都道府県の入試日程（検査の実施時期、検査日数）

番号	都道府県	１月		２月			３月	
		中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
1	北海道			推薦１			一般２	
2	青森						一・特１	
3	岩手		推薦１				一般１	
4	宮城						特・共２	
5	秋田		前期１				一般１	
6	山形			推薦１			一般２	
7	福島						特・一３	
8	茨城						特・共２	
9	栃木			特色２			一般１	
10	群馬			前期１		後期２		
11	埼玉					一般２		
12	千葉					一般２		
13	東京		推薦２			一・前１	後期１	
14	神奈川			共通４				
15	新潟			特色化１			一般２	
16	富山			推薦１			一般２	
17	石川			推薦１			一般２	
18	福井	推・特１					一般２	
19	山梨		前期２				後期１	
20	長野			前期１			後期１	
21	岐阜						第一次２	
22	静岡						一般２	
23	愛知						推・一２	
24	三重			前・ス２			後期１	
25	滋賀			推･ス･特2			一般２	
26	京都				前期２		中期１	
27	大阪				特別２		一般１	
28	兵庫				推・特２		一般２	
29	奈良				特色２		一般１	
30	和歌山							一・ス２
31	鳥取			推薦１			一般２	
32	島根	推・ス１					一般２	
33	岡山			特別２			一般２	

34	広島			推薦１			一般２	
35	山口			推薦１			第一次１	
36	徳島			特色１			一般２	
37	香川			自己推薦１			一般２	
38	愛媛			推薦１			一般２	
39	高知						Ａ日程２	
40	福岡		特色化２	推薦２			一般１	
41	佐賀			特別１			一般２	
42	長崎			前期２			後期２	
43	熊本			特色１			一般２	
44	大分			推薦２			第一次２	
45	宮崎			推・ス１			一般２	
46	鹿児島			推薦１			一般２	
47	沖縄		推薦１				一般２	

３　各都道府県の状況

番号	都道府県	選抜制度	
1	北海道	推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 【検査・選抜】 ・個人調査書、推薦書、面接 ・学校によって、英語の聞取テスト・問答、実技、作文、自己アピール文提出	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・実技、作文の実施可。 ・学力検査で傾斜配点可。
2	青森県	特色化	一般
		【検査・選抜】 ・学力検査、調査書、面接 ・学校によって、調査書の評定以外（特別活動、部活動実績等）、実技検査	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・一般、特色化の選抜順、割合を、各学科で設定。
3	岩手県	推薦	一般
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・スポーツ、文化、芸術等で顕著な成績を収めた者、又は、将来の職業選択や社会貢献に強い意欲を持っている者（各高校が示す推薦基準を満たす者） 【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、小論文又は作文、適性検査	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・小論文又は作文、適性検査の実施可。 ・学力検査で傾斜配点可。 ・学力検査：調査書等（評定、面接等）を、Ａ選考（５：５）、Ｂ選考（３：７）、Ｃ選考（７：３）とし、定員の３割はＡ～Ｃ選考の比率を各学科で設定。

4	宮城県	第一次（特色）	第一次（共通）
		【検査・選抜】 ・調査書、学力検査 ・学校によって面接 ・学力検査の各教科は0.25～2.0倍、調査書の各教科の評定は0.25～4.0倍から各学科で設定。	【面接】学科によって実施。 【学校の特色】 ・面接、実技、作文の実施可。 ・学力検査：調査書（評定）を、７：３～３：７から各学科で設定。
5	秋田県	前期	一般
		【出願要件】 ・各高校が示す「出願の条件」を満たしている者 【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、学力検査（国・数・英）又は口頭試問、作文、実技	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査、調査書（評定）のそれぞれの合格範囲を示す相関図は各学科で設定。
6	山形県	推薦（自己推薦）	一般
		※　普通科では実施しない。 【出願要件】 ・各高校の出願要件を満たした者 【検査・選抜】 ・調査書、面接 ・学校によって、適性検査、作文、実技検査、基礎学力検査、自己申告書	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書（評定）を、７：３～３：７から各学科で設定。
7	福島県	特色	一般
		【検査・選抜】 ・志願理由書、調査書、学力検査、面接 ・学校によって、小論文又は作文、実技等	【面接】学科により実施。 【学校の特色】 ・学力検査で傾斜配点可。 ・調査書（評定）で傾斜換算可。
8	茨城県	特色	共通
		【出願要件】 ・文化、芸術、体育等の分野において優れた資質・実績を有する者 ・各高校が定める出願要件を満たす者 【検査・選抜】 ・調査書、学力検査、面接	【面接】全日制では実施しない。 【学校の特色】 ・学力検査重視：調査書重視の比率を、２：８～８：２から各学科で設定。
9	栃木県	特色	一般
		【検査・選抜】 ・調査書、志願理由書、面接 ・学校によって、作文、小論文、学校独自検査（国・数・英、又は、総合問題）	【面接】学科によって実施。 【学校の特色】 ・学力検査：調査書を、９：１～５：５から各学科で設定。

<table>
<tr><td rowspan="2">10</td><td rowspan="2">群馬県</td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>【検査・選抜】
・調査書、３教科の学力検査又は総合問題
・高校独自の検査（面接、英語面接、実技検査、作文、小論文、パーソナル・プレゼンテーション）</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査：調査書（評定）：面接等を、各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">11</td><td rowspan="2">埼玉県</td><td colspan="2">一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査：調査書（評定）を、第１次選抜では６：４～４：６、第２次選抜では７：３～３：７から各学科で設定。
・調査書の評定以外を各高校の基準で得点化し加算。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12</td><td rowspan="2">千葉県</td><td colspan="2">一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・調査書の各教科の評定を0.5～2.0倍にできる。
・調査書の評定以外の記載内容で50点まで加点可。
・学校設定検査（面接、集団討論、自己表現、作文、小論文、適性検査、学校独自問題による検査等）の実施可。
・募集人数の２割まで、調査書（評定）、調査書（評定以外）、面接の配点を変えて選抜可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">13</td><td rowspan="2">東京都</td><td>一般推薦</td><td>文化・スポーツ等特別推薦</td><td>第一次、分割前期</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
【検査・選抜】
・調査書、面接
・学校によって、小論文又は作文、実技検査</td><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・１種目を指定し、応募基準を満たした者
【検査・選抜】
・調査書、面接、実技検査
・学校によって小論文又は作文</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・面接、適性検査を加算可。
・分割後期では、定員の一部をあらかじめ二次募集にする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">14</td><td rowspan="2">神奈川県</td><td colspan="2">共通</td></tr>
<tr><td colspan="2">【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・各高校の選考基準で選考。
・特色検査（実技検査又は自己表現）の実施可、特色検査を実施する場合は学力検査を３教科まで減じることも可。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">15</td><td rowspan="2">新潟県</td><td colspan="2">特色化</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・スポーツ活動、文化活動、科学分野等で秀でた実績がある者（実績について各高校で定める要件を満たす者）
【検査・選抜】
・特色化選抜推薦書、調査書、面接
・学校によって面接以外の検査（実技、ＰＲシート、作品提出等）</td><td>【面接】学校独自検査として実施可。
【学校の特色】
・学校独自検査として、面接、PRシート、実技検査、課題作文、筆頭検査、その他も可。
・学力検査：調査書（評定）を、７：３～３：７から各学科で設定。
・学校独自検査点を加算。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">16</td><td rowspan="2">富山県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・次のａ～ｄのいずれかの者
ａ　調査書の「学習の記録」が優良
ｂ　専門に関する優れた能力又は実績
ｃ　芸術・文化・体育のいずれかで優れた能力又は実績
ｄ　生徒会活動等で積極的に取り組んだ実績
【検査・選抜】
・調査書、推薦書、面接
・学校によって、作文、実技検査</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・調査書点（評定）又は学力検査点が募集定員の上位１割について、調査書点又は学力検査点のみで合否判定可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">17</td><td rowspan="2">石川県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・普通科は、各高校の推薦要件を満たす者
・普通科以外は、調査書に優れた点や長所の記録を有する者
【検査・選抜】
・推薦書、志願理由書、調査書、面接
・学校によって、作文、適性検査</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・面接、適性検査の実施可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">18</td><td rowspan="2">福井県</td><td>推薦</td><td>特色</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・調査書の各記録が優良
【検査・選抜】
・調査書、面接
・学校によって、作文、実技試験</td><td>※　推薦と併願不可。
【出願要件】
・各高校の資格要件（部活動等の競技実績）を満たす者
【検査・選抜】
・学力検査（国、数、英）、志願理由書、面接
・学校によって、実技試験</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・数学、英語の学力検査の一部はＡ（基礎力）・Ｂ（記述・論述型）の選択問題。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">19</td><td rowspan="3">山梨県</td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・各高校が定める「出願条件」に適合すると自ら考える者
【検査・選抜】
・調査書、学習活動及び生活状況に関する中学校長の所見、面接
・学校によって、特色適性検査、特技、個性表現</td><td>【面接】実施しない。
【学校の特色】
・調査書の評定以外を各高校の基準で30段階評価。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">20</td><td rowspan="3">長野県</td><td>前期</td><td>後期</td></tr>
<tr><td>【検査・選抜】
・調査書、面接
・学校によって、志願理由書又は自己ＰＲ文、作文又は小論文、実技検査</td><td>【面接】実施しない。
【学校の特色】
・専門学科では２教科について傾斜配点可（２倍まで）。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">21</td><td rowspan="3">岐阜県</td><td colspan="2">第一次</td></tr>
<tr><td colspan="2">【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・専門領域における実技能力や部活動等の実績評価のための独自検査（面接、小論文、実技検査、自己表現）も可。
・学力検査：調査書（評定）を、７：３～３：７から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">22</td><td rowspan="3">静岡県</td><td colspan="2">一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学校裁量枠、共通枠で選抜。
・学校裁量枠は、調査書、学力検査、面接、学校独自選抜資料（作文、小論文、実技検査、その他）により、各高校の選抜方法で選抜。
・共通枠のうち25％は、学力検査又は調査書（評定）・面接による３段階の選抜。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">23</td><td rowspan="3">愛知県</td><td>推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・各高校で推薦基準を定めている
・体育学科は、運動分野で顕著な活躍をした者
【検査・選抜】
・推薦書、調査書、面接
・学校によって特別検査（芸術、スポーツ）
・選抜基準は次のア～エのいずれか
ア　運動、文化、芸術等で優れた能力・適性及び実績
イ　恵まれない環境を克服し、他の模範
ウ　調査書の「学習の記録」が優秀
エ　専門学科では、将来の職業意志</td><td>※　高校をＡグループ、Ｂグループに分け、それぞれに出願可（最大２校に出願可）。
【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・受検者のうち一部は、学力検査：調査書を、４：６～６：４から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">24</td><td rowspan="2">三重県</td><td>前期</td><td>スポーツ特別枠</td><td colspan="2">後期</td></tr>
<tr><td>【検査・選抜】
・面接又は自己表現、作文又は小論文、学力検査（国又は数・英）から１つ以上</td><td>【出願要件】
・各高校の「応募資格」を有する者
【検査・選抜】
・前期の内容に加えて、実技検査等</td><td colspan="2">【面接】学科により実施。
【学校の特色】
・面接又は自己表現、作文又は小論文、実技検査の実施可。
・選抜の最終段階で、各高校が示す「特に重視する選考資料等」を踏まえる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">25</td><td rowspan="2">滋賀県</td><td>推薦</td><td>スポーツ・文化芸術推薦</td><td>特色</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・各高校が示す推薦要件にふさわしい者
【検査・選抜】
・個人調査報告書、推薦書、面接、作文又は実技検査</td><td>※　県の指定校のみで実施。
【出願要件】
・中学校長の推薦
・各高校の推薦要件を満たす者
【検査・選抜】
・個人調査報告書、推薦書、実技検査
・学校によって、面接、作文又は小論文、特色選抜の総合問題</td><td>【検査・選抜】
・志願理由書、個人調査報告書、口頭試問、小論文、志願理由書、総合問題又は実技検査</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査を１教科減が可。
・学力検査：個人調査報告書を、７：３～５：５から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">26</td><td rowspan="2">京都府</td><td colspan="2">前期</td><td colspan="2">中期</td></tr>
<tr><td colspan="2">【検査・選抜】
・報告書、学力検査（共通又は学校独自）、面接、作文又は小論文、活動実績報告書、実技検査</td><td colspan="2">※　２校まで志願可。
【面接】学科により実施。
【学校の特色】
・第１志望から合格を決定する割合を設定可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">27</td><td rowspan="2">大阪府</td><td colspan="2">特別</td><td colspan="2">一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【検査・選抜】
・調査書、学力検査、実技検査又は面接、自己申告書</td><td colspan="2">【面接】学科により実施。
※　面接を実施しない学科でも自己申告書を提出。
【学校の特色】
・国語、数学、英語の学力検査は、「基礎的」、「標準的」、「発展的」の３種類から選択。
・学力検査：調査書（評定）を、７：３～１：９から各学科で設定。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">28</td><td rowspan="2">兵庫県</td><td>推薦</td><td>特色</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>※　普通科普通コースは実施しない。
【出願要件】
・中学校長の推薦
【検査・選抜】
・調査書、推薦書、面接、
・学校によって、小論文（作文）、適性検査、実技検査</td><td>【検査・選抜】
・調査書、面接
・学校によって、実技検査、小論文（作文）</td><td>・２校まで志願が可能。
【面接】学科により実施。
【学校の特色】
・総合学科では音・美・保体・技家の実技検査１つを国・数・社・理・英の検査に代替可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">29</td><td rowspan="2">奈良県</td><td colspan="2">特色</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【検査・選抜】
・調査書、学力検査（国・数・英）
・学校によって、学校独自検査、面接、実技検査</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・調査書の評定の加重配点可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">30</td><td rowspan="2">和歌山県</td><td colspan="2">スポーツ推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・各高校の出願条件（競技と人数）を満たす者
【検査・選抜】
・スポーツ推薦書、実技検査</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査：調査書（評定）：面接は、各学科で設定。ただし、学力検査、調査書は各３割以上。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">31</td><td rowspan="2">鳥取県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】中学校長の推薦
【検査・選抜】
・推薦書、調査書、面接又は口頭試問
・学校によって、作文又は小論文、実技検査</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学力検査を２教科まで減が可。
・作文、実技検査の実施可。
・学力検査：調査書（評定）を、８：２～２：８から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">32</td><td rowspan="2">島根県</td><td>推薦</td><td>スポーツ特別</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・スポーツ、文化活動等で各高校が項目を示す
【検査・選抜】
・個人調査報告書、面接
・学校によって、作文、実技検査等</td><td>※　競技、学校は県が指定。
【出願要件】
・中学校長の推薦
・実績を有する者又は優れた資質や能力を有する者
【検査・選抜】
・面接、書類選考</td><td>【面接】学科により実施。
【学校の特色】
・面接、実技検査の実施可。
・学力検査：個人調査報告書を、６：４～２：８から各学科で設定。</td></tr>
</table>

33	岡山県	特別	一般
		※　普通科では実施しない。 【検査・選抜】 ・調査書、学力検査（国・数・英）、面接、選択実施の検査（口頭試問、小論文、作文、実技から１つ以上） ・学力検査の成績が一定以上ならば、あらかじめ示している実績の重視も可	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・学力検査の成績が一定以上ならば、調査書・面接重視の選抜も可。
34	広島県	選抜（Ⅰ）（推薦）	選抜（Ⅱ）（一般）
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校の推薦基準を満たす者 【検査・選抜】 ・推薦書、志望理由書、調査書、面接 ・学校によって学力検査以外の独自検査	【面接】学科によって実施。 【学校の特色】 ・自校作成問題を学力検査に追加・代替可。 ・定員の２割までは学力検査重視（学力検査：調査書（評定）が７：３～９：１）又は調査書重視（学力検査：調査書（評定）が３：７～２：８）も可。
35	山口県	推薦	第一次
		【出願要件】 ・中学校長の推薦 ・各高校が定める推薦要件を満たす者 【検査・選抜】 ・推薦書、調査書、志願理由書、面接（自己表現も可） ・学校によって、小論文、実技検査	【面接】全員に実施。 【学校の特色】 ・小論文、実技検査、実技検査の実施可。 ・定員の一部で、学力検査が一定以上ならば調査書、面接、小論文、実技検査で選抜可。
36	徳島県	特色	一般
		【検査・選抜】 ・調査書、活動記録、学力検査 ・学校によって、作文、面接、実技等	【面接】全員に実施。
37	香川県	自己推薦	一般
		【検査・選抜】 ・調査書、自己PR書、面接 ・学校によって、総合問題（国・数・英の思考力・表現力）、作文、適性検査	【面接】全員に実施。

<table>
<tr><td rowspan="2">38</td><td rowspan="2">愛媛県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・優れた実績・成果を有する者
【検査・選抜】
・自己アピール書、報告書、作文又は小論文、面接又は集団討論</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・定員の３割は、学力検査：調査書（評定）：調査書の学習の記録以外・面接を、各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">39</td><td rowspan="2">高知県</td><td colspan="3">Ａ日程</td></tr>
<tr><td colspan="3">【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学力検査、調査書（評定）のそれぞれに傾斜配点可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">40</td><td rowspan="2">福岡県</td><td>推薦</td><td>特色化</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
・各高校が定める出願資格を満たす者
【検査・選抜】
・志願理由書、推薦書、調査書、面接
・学校によって、作文、実技試験</td><td>【出願要件】
・各高校の出願資格を満たす者
【検査・選抜】
・調査書、面接
・学校によって、作文、実技試験</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・「個性重視の特別試験」として面接、作文、実技も可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">41</td><td rowspan="2">佐賀県</td><td colspan="2">特別</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">※　県スポーツ、文化芸術指定校で実施。
【検査・選抜】
・調査書、学力検査（国・数・英）、実技検査、実績評価、面接</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・数、英で追加問題可。
・調査書の学習の記録以外も各校の基準で得点化。
・学力検査：調査書（評定）を、５：５～７：３から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">42</td><td rowspan="3">長崎県</td><td colspan="2">前期</td><td rowspan="2">後期</td></tr>
<tr><td>特色</td><td>文化・スポーツ特別</td></tr>
<tr><td>【検査・選抜】
・調査書、検査（基礎学力検査（国・数・英）、面接、プレゼンテーション、実技、作文、小論文から選択）</td><td>※　県指定校で実施。
【出願要件】
・優れた実績を有する者又は優れた資質や能力を有する者
【検査・選抜】
・調査書、検査（基礎学力検査（国・数・英）、面接、実技、作文、小論文から選択）</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学力検査で傾斜配点可。
・学力検査：調査書（評定）：面接を各学科で設定。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2">43</td><td rowspan="2">熊本県</td><td colspan="2">前期（特色）</td><td>後期（一般）</td></tr>
<tr><td colspan="2">【検査・選抜】
・調査書、学校独自検査（面接、小論文、実技検査、実験、自己表現、小中学校での総合的な学習の時間の成果に関するもの）</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・数学、英語で学校選択問題。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">44</td><td rowspan="2">大分県</td><td colspan="2">推薦</td><td>第一次</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・スポーツ、文化等で成果を収めた者（詳細は各高校で定める）
【検査・選抜】
・調査書、推薦書、面接
・学校によって小論文</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査：調査書を、５：５～３：７から各学科で設定。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">45</td><td rowspan="2">宮崎県</td><td>推薦</td><td>スポーツ推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td>【出願要件】
・中学校長の推薦
【検査・選抜】
・調査書、推薦理由書、学力検査（２～３教科、傾斜配点も可）、面接、作文
・学校によって適性検査</td><td>※　県指定校で実施。
【出願要件】
・中学校長の推薦
・全国大会並みの実績を有する者中学校長の推薦
【検査・選抜】
・推薦と同じ。</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学力検査で傾斜配点可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">46</td><td rowspan="2">鹿児島県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】中学校長の推薦
【検査・選抜】
・推薦書、調査書
・学校によって面接等</td><td>【面接】学科によって実施。
【学校の特色】
・学力検査の傾斜配点可。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">47</td><td rowspan="2">沖縄県</td><td colspan="2">推薦</td><td>一般</td></tr>
<tr><td colspan="2">【出願要件】
・中学校長の推薦
・諸活動の実績を表現できる者（自己表現）又は文化芸術分野で表現できる者（個性表現）
【検査・選抜】
・推薦入学志願書、調査書、推薦申請書、面接（自己表現、個性表現）</td><td>【面接】全員に実施。
【学校の特色】
・学力検査：調査書（評定）を、４：６～６：４から各学科で設定。</td></tr>
</table>

参考資料２

青森、宮城、福島県の特色選抜に係る志願者等への事前提示資料

青森高等学校　普通科

㊙

求める生徒像

本校は「自律自啓・誠実勤勉・和協責任」の綱領のもと、変化していく社会の中で自ら進んで課題を解決し、社会の発展に貢献できる「主体性と協調性を持って果敢に未来を切り拓く生徒」の育成を目指しています。そのために、下記の要件を満たす生徒を求めます。

一般選抜	次の要件すべてを満たす生徒を求めています。 1　学業・人物ともに優秀で、学習意欲が旺盛な生徒。 2　本校で学ぼうとする動機が明確な生徒。 3　本校入学後も高い目標を持ち、その実現に意欲的な生徒。
特色化選抜	次の要件すべてを満たす生徒を求めています。 1　確かな基礎学力を有し、幅広い分野に興味関心を持ち貪欲に学ぶ生徒。 2　本校で学ぼうとする動機が明確な生徒。 3　特別活動等において自らの責務を果たし、顕著な実績を収めるなど、集団に貢献できる生徒。

入学者選抜（選抜方法等）

選抜方法【選抜順序　＜①特色化選抜　②一般選抜＞】

一般選抜（募集人員の70％）

学力検査得点（500点）と調査書の評定（135点）について群分けを行う。求める生徒像に照らし、調査書の記載内容及び面接結果を考慮しつつ、Ⅰ群、Ⅱ群、Ⅲ群の順に総合的に判断して選抜する。

群分けの基準

Ⅰ群　学力検査得点の順位及び調査書の順位が一般選抜人員の100％以内にあるもの。

Ⅱ群　学力検査得点の順位または調査書の順位のどちらかが一般選抜人員の100％以内にあるもの。

Ⅲ群　学力検査得点の順位及び調査書の順位が一般選抜人員の100％以内にないもの。

特色化選抜（募集人員の30％）

1　各選抜資料の配点（合計850点）

(1)　学力検査　650点
　国語・数学・英語の得点を各1.5倍とする傾斜配点を行う。

(2)　調査書　180点
　ア　教科の評定　135点
　イ　特別活動等の記録　45点

(3)　面接　20点

2　上記１を基に、求める生徒像に照らし、調査書の記載内容も考慮して総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接

(1)　面接方法
　集団面接（１組５名）

(2)　面接委員の構成
　１組２名

(3)　所要時間
　１組10分程度

(4)　面接内容
　ア　本校を志望した理由
　イ　興味関心のある事柄と進路志望
　ウ　高校生活への抱負
　エ　特別活動等について　等

(5)　評価の観点
　ア　内容
　イ　服装
　ウ　言葉遣い
　エ　態度　等

再募集（選抜方法等）

選　抜　方　法

1　各選抜資料の配点（合計300点）

(1)　学力検査（100点満点）　100点

(2)　調査書　180点
　ア　教科の評定　135点
　イ　特別活動等の記録　45点

(3)　面接　20点

2　上記１を基に、求める生徒像に照らし、調査書の記載内容も考慮して総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接

(1)　面接方法
　個人面接

(2)　面接委員の構成
　１組２名

(3)　所要時間
　１人５分程度

(4)　面接内容
　入学者選抜と同じ

(5)　評価の観点
　入学者選抜と同じ

青森北高等学校　スポーツ科学科

㊟

求める生徒像

本校では、「自治」・「協和」・「日進」の校訓のもとに、文武両道を中核として、社会の発展に寄与し得る、実践力に富む、個性豊かな人間の育成を目指しています。さらに、スポーツに関する幅広い知識を有し、個々の競技種目においては卓越した力を発揮できるエキスパート・スペシャリストの育成を目指しています。そこで、基本的生活習慣が身に付いており、本校入学に強い意志を持ち、それぞれ下記の要件を満たす生徒を求めています。

一般選抜	次のすべての要件に該当する生徒を求めています。 1　基礎学力と優れた運動能力を有し、個々の競技種目を通して自らの競技力向上に努めるとともに、大学進学も視野に入れながら、より高度な専門性の追求に情熱を持って取り組む生徒。 2　何事にもチャレンジする精神を持ち、文武両道に励みながら、自ら設定した目標の達成に向けて日々努力する生徒。
特色化選抜	次のすべての要件に該当する生徒を求めています。 1　本校のカリキュラムに対応できる学力を有し、それぞれのスポーツ活動において優れた能力や実績があり、本校に入学後も積極的に活動しようという強い意欲のある生徒。 2　規範意識が身に付いており、積極的に他者とのコミュニケーションを図る意欲を持っている生徒。

入学者選抜（選抜方法等）

選抜方法【選抜順序　＜①一般選抜　②特色化選抜＞】

一般選抜（募集人員の50％）

学力検査の得点（500点満点）の順位、調査書の評定の総計（135点満点）と実技検査の得点（160点満点）の合計得点（295点満点）の順位を基に下記のように群に分け、Ⅰ群、Ⅱ群、Ⅲ群の順に選抜する。

選抜にあたっては調査書の記載内容と面接を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断して選抜する。

・Ⅰ群…学力検査の得点の順位と調査書と実技検査の合計得点の順位がともに一般選抜人員の90％以内にあるもの。
・Ⅱ群…学力検査の得点の順位と調査書と実技検査の合計得点の順位のいずれかが一般選抜人員の90％以内にあるもの。
・Ⅲ群…学力検査の得点の順位と調査書と実技検査の合計得点の順位がともに一般選抜人員の90％以内にないもの。

特色化選抜（募集人員の50％）

1　各選抜資料の配点（合計1000点）
(1)　学力検査　500点
(2)　調査書　270点
ア　教科の評定　135点
イ　部活動等　最大　135点
（全国大会入賞135点、全国大会出場・東北大会入賞110点、東北大会出場70点、県大会入賞50点、県大会出場10点）
ただし、３位以内を入賞とし、中体連主催・共催のものの他、県・地区選抜選手になるなど特筆できる実績及びクラブチームでの成績についても上記のように得点化する。
(3)　実技検査　160点（各種目40点）
(4)　面接　70点
2　上記１を基に、調査書の記載内容を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接
(1)　面接方法
集団面接（１組５名）
(2)　面接委員の構成
１組２名
(3)　所要時間
１組10分程度
(4)　面接内容
ア　志望の動機
イ　高校生活への抱負
ウ　将来の進路希望
エ　中学校での活動状況
オ　その他
(5)　評価の観点
ア　応答内容
イ　服装・容儀
ウ　言葉遣い・態度　等
2　実技検査
(1)　検査種目
ア　反復横跳び
イ　握力
ウ　膝立てメディシンボール後方投げ
（男子３kg、女子２kg）
エ　立ち幅跳び
(2)　評価の観点
敏捷性、筋力、瞬発力、跳躍力

再募集（選抜方法等）

選　抜　方　法

1　各選抜資料の配点（合計900点）
(1)　学力検査　400点
（得点を４倍する）
(2)　調査書　270点
ア　教科の評定　135点
イ　部活動等　最大　135点
配点については入学者選抜と同じ
(3)　実技検査　160点（各種目40点）
(4)　面接　70点
2　上記１を基に、調査書の記載内容を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接
(1)　面接方法
個人面接
(2)　面接委員の構成
１組２名
(3)　所要時間
１人５分程度
(4)　面接内容
入学者選抜と同じ
(5)　評価の観点
入学者選抜と同じ
2　実技検査
入学者選抜と同じ

青森工業高等学校　全学科

㊟

求める生徒像

本校では優れた工業技術者となる人材を育成することを目標としています。
そのため、必要な資格取得に力を入れるとともに部活動や生徒会活動等を通して、自主的・積極的な生徒を育てることに力を入れています。

一般選抜	次のすべての要件に該当する生徒を求めています。 1　工業科目や「ものづくり」に興味があり、積極的に取り組む生徒。 2　工業科目を学ぶ上での基礎学力がある生徒。 3　規範意識を身に付け、ルールを遵守する意識が高い生徒。
特色化選抜	工業科目を学ぶ上での基礎学力と基本的生活習慣を身につけており、スポーツ、文化活動、生徒会活動等において顕著な成果を収め、入学後も継続して熱心に取り組む生徒。

入学者選抜（選抜方法等）

選抜方法【選抜順序　＜①一般選抜　②特色化選抜＞】

一般選抜（募集人員の85%）

学力検査の得点（500点満点）の順位、調査書の評定の総計（135点満点）の順位を基に下記のように群に分け、Ⅰ群、Ⅱ群、Ⅲ群の順に選抜する。
選抜にあたっては、調査書の記載内容と面接を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断し選抜する。

・Ⅰ群…学力検査と調査書の順位がともに一般選抜人員の90%以内にあるもの。
・Ⅱ群…学力検査又は調査書のいずれかの順位が一般選抜人員の90%以内にあるもの。
・Ⅲ群…学力検査と調査書の順位がともに一般選抜人員の90%以内にないもの。

特色化選抜（募集人員の15%）

1　各選抜資料の配点（合計850点）
(1)　学力検査　400点
（各教科の得点を80点満点に換算する）
(2)　調査書　250点
ア　教科の評定　135点
イ　特別活動　45点
（学級活動15点、生徒会活動15点、学校行事15点）
ウ　部活動　最大　70点
入賞歴　入賞歴については、３年間を通じて最も成績の良いものを点数化の対象とする。【東北・全国大会入賞最大60点、県大会入賞最大40点、地区大会入賞最大20点】
部長経験　10点
(3)　面接　200点
2　上記１を基に、調査書の記載内容を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接
(1)　面接方法
個人面接
(2)　面接委員の構成
１組２名
(3)　所要時間
１人５分程度
(4)　面接内容
ア　志望の動機と理由
イ　高校生活への抱負
ウ　将来の生活設計
エ　中学校における活動状況
オ　ものづくりに対する関心
カ　その他
(5)　評価の観点
ア　意欲
イ　内容
ウ　表現力
エ　服装・容儀
オ　態度　等

再募集（選抜方法等）

選　抜　方　法

1　各選抜資料の配点（合計635点）
(1)　学力検査（100点満点）　300点
得点を３倍とする。
(2)　調査書の評定　135点
(3)　面接　200点
2　上記１を基に、調査書の記載内容を考慮しながら、求める生徒像に照らして総合的に判断して選抜する。

面接及びその他の選抜資料等

1　面接
(1)　面接方法
個人面接
(2)　面接委員の構成
１組２名
(3)　所要時間
１人５分程度
(4)　面接内容
入学者選抜と同じ
(5)　評価の観点
入学者選抜と同じ

学校名	宮城県仙台第一高等学校	課程	全日制	学科（コース・部）	普通科	募集定員	320人

求　め　る　生　徒　像

本校は，校訓である「自重献身」，標語「自発能動　以亮天功」のもと，社会に対する健全な批判力をもち，自主自立の精神に充ちた，心身ともに健康な，国家及び社会の有為な形成者となる生徒の育成に努めています。
そこで，本校の目指す人間像に共感し，高校生活のあらゆる場面で自己の可能性を追求しながら，豊かな人間性を磨いていこうとする，次の1～4の全てに当てはまる生徒を求めます。

1　極めて優秀な学力を有し，学問の本質を探究する意欲にあふれた生徒
2　課題の解決や発信に積極的で，よりよい社会の構築にむけて理想を実現しようとする高い志を有する生徒
3　幅広い知識，または優れた技能を有し，主体的な学習者として，継続的に日々努力できる生徒
4　部活動，特別活動，校外活動等で中心的な役割を担い，または優れた能力や顕著な実績があり，入学後もリーダーシップを発揮し，協同的に活動できる生徒

特に，特色選抜においては，上記の3，4を重視します。

第　一　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

選抜順序	共通選抜 ➡ 特色選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの
第2志望とすることができる学科・コース		なし

共　通　選　抜　　288人（募集定員の90%）

学力検査：調査書	7　：　3

学力検査点（500点満点）と調査書点（195点満点）の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は7：3とする。
※調査書点：「5教科（国・数・社・英・理）の各学年の評定の合計」＋「4教科（音・美・保体・技家）の各学年の評定の合計×2」

特　色　選　抜　　32人（募集定員の10%）

Ⅰ　配点
1　調査書　　195点
・ 国語，数学，社会，英語，理科 ・・・・・・・全学年の評定を1．0倍にする
・ 音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　500点
・ 国語，数学，社会，英語，理科・・・・・・・・得点を1．0倍にする
合計　695点
Ⅱ　選抜方法
・ 審査は，学力検査点と調査書点の合計点上位の者から，特色選抜で選抜する32人の200%の範囲に含まれる者を対象として行う。
・ 学力検査点と調査書点を合計した点数を基に，調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料）も用いて，求める生徒像に照らして総合的に審査し，選抜する。

第　二　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

Ⅰ　配点
1　調査書　　195点
・ 国語，数学，社会，英語，理科 ・・・・・・・全学年の評定を1．0倍にする
・ 音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　300点
・国語，数学，英語（各教科100点満点）
3　面接　　55点
合計　550点
Ⅱ　選抜方法
上記Ⅰを基に，総合的に審査し，選抜する。

面接・実技・作文

Ⅰ　面接
1　形態　個人面接
2　時間　15分程度
3　内容（1）志望動機
（2）中学校での活動状況
（3）将来の進路志望
（4）口頭試問
4　観点（1）態度　15点
（2）表現力　15点
（3）理解力　25点

学校名	宮城県多賀城高等学校	課程	全日制	学科（コース・部）	災害科学科	募集定員	40人

求　め　る　生　徒　像

多賀城高校は「一人一人が生き生きと自分を伸ばせる学校」を目指し，創立以来，地域社会の期待に応えてきました。そして，多賀城高生は「自身を大きく成長させるための努力を惜しまない」高校生活を送ってきました。
特に災害科学科では，課題研究や校外研修等を通して防災・減災・環境等に関する学びを深め，「命とくらしを守る」未来の創造者の育成を目指しています。
そこで，災害科学科では次の1～4に当てはまる生徒を求めます。

1　挨拶や言葉遣いなど，基本的な生活習慣が身に付いている生徒
2　中学校での学習への取り組みが良好かつ成果が優秀であり，特に数学・理科の成績に秀でている生徒
3　本学科への志望動機が明確であり，入学後も上級学校への進学を視野に入れつつ，継続的に努力できる生徒
4　部活動や特別活動等においてリーダーシップを発揮するとともに，互いの立場を考え，他者とのコミュニケーションを取ることができる生徒

特に，特色選抜においては，上記の2～4を重視します。

第　一　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

選抜順序	特色選抜 ➡ 共通選抜	面接・実技・作文のうち実施するもの
第2志望とすることができる学科・コース	普通科	面接

共　通　選　抜　　24人（募集定員の60%）

学力検査：調査書	6 ： 4

学力検査点（500点満点）と調査書点（195点満点）の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は6：4とする。
※調査書点：「5教科（国・数・社・英・理）の各学年の評定の合計」＋「4教科（音・美・保体・技家）の各学年の評定の合計×2」

特　色　選　抜　　16人（募集定員の40%）

Ⅰ　配点
1　調査書　　195点
・　国語，数学，社会，英語，理科 ・・・・・全学年の評定を1．0倍にする
・　音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　　600点
・　国語，社会，英語・・・得点を1．0倍にする
・　数学，理科・・・・・・・・得点を1．5倍にする
3　面接　　3段階評価（A～C）
合計　795点
Ⅱ　選抜方法
・　審査は，学力検査点と調査書点の合計点上位の者から，特色選抜で選抜する16人の150%の範囲に含まれる者を対象として行う。
・　学力検査点と調査書点を合計した点数を基に，面接の結果や調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料）も用いて，求める生徒像に照らして総合的に審査し，選抜する。

Ⅰ　面接
1　形態
個人面接
2　時間
5分程度
3　内容
(1)　志望動機
(2)　その他
4　観点
(1)　志望動機の明確さ
(2)　表現力等

※面接については，1日目に実施する。

第　二　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

Ⅰ　配点
1　調査書　　195点
・　国語，数学，社会，英語，理科 ・・・・・全学年の評定を1．0倍にする
・　音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　　300点
・　国語，数学，英語（各教科100点満点）
3　面接　　3段階評価（A～C）
合計　495点
Ⅱ　選抜方法
上記Ⅰを基に，総合的に審査し，選抜する。

面接・実技・作文

Ⅰ　面接
1　形態
個人面接
2　時間
10分程度
3　内容
第一次募集の内容に加えて中学校での活動状況等も聞く
4　観点
第一次募集と同じ

学校名	宮城県農業高等学校	課程	全日制	学科（コース・部）	農業機械科	募集定員	40人

求　め　る　生　徒　像

本校では，教育目標である「自然を愛し，心身共に健康でたくましく」を体現し主体的で創造的な生徒の育成に努めています。また，県内の生命・食・環境・エネルギー等の農業に関する教育の中心校として，新しい時代を担い地域振興に貢献できる志を養い，生命に向き合う優しさや他者とコミュニケーションが図れる人間の育成を目指しています。

地域社会のリーダーを目指し，その実現のために大学又はその他の上級学校等への進学や関連産業への就職を通じて，夢を実現しようとする意欲があり，次の1～5の全てに当てはまる生徒を求めます。

1　入学する志望動機が明確であり，入学後は意欲的に農業学習・学校生活に取り組み，模範生徒として活躍できる生徒
2　基本的な生活習慣が身に付いており豊かな人間性を磨くために努力し，互いにコミュニケーション能力を高められる生徒
3　本校の目標である校訓「自啓」を理解し，進路実現に向かって継続的に努力できる生徒
4　中学校3年間続けてきたスポーツ的活動，文化的活動を高校入学後も継続して活動する意欲のある生徒
5　農業機械やものづくりに関する学習に強い興味・関心があり,将来の農業の担い手・地域の担い手や農業関係等への進学・就職を目指している生徒

特に，特色選抜においては，上記4及び5のいずれかに当てはまる生徒を重視します。

第　一　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

選抜順序	共通選抜 ➡ 特色選抜
第2志望とすることができる学科・コース	農業科・園芸科，食品化学科，生活科

共　通　選　抜　　32人（募集定員の80%）

学力検査：調査書	５　：　５

学力検査点（500点満点）と調査書点（195点満点）の満点を原点とした相関図を用いて選抜する。相関図での学力検査点と調査書点の比重は5：5とする。
※調査書点：「5教科（国・数・社・英・理）の各学年の評定の合計」＋「4教科（音・美・保体・技家）の各学年の評定の合計×2」

特　色　選　抜　　8人（募集定員の20%）

Ⅰ　配点
1　調査書　　220点
・　国語，数学，社会，英語，理科・・・・・・・1，2年の評定を1．0倍にし，3年の評定を2．0倍にする
・　音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　　250点
・　国語，数学，社会，英語，理科・・・・・・得点を0．5倍にする
3　作文　　150点
合計　620点
Ⅱ　選抜方法
・　審査は，学力検査点，調査書点及び作文の得点の合計点上位の者から，特色選抜で選抜する8人の150%の範囲に含まれる者を対象として行う。
・　学力検査点，調査書点及び作文の得点を合計した点数を基に，調査書の記載事項（評定以外の特別活動の記録などの資料）も用いて，求める生徒像に照らして総合的に審査し，選抜する。

面接・実技・作文のうち実施するもの

作文

Ⅰ　作文
1　形態
質問に対して記入
2　時間
50分
3　内容
(1)　志望動機
(2)　中学校での活動状況
(3)　学習への興味・関心
(4)　農業学習への心構え
(5)　将来の進路志望
(6)　その他
4　観点
(1)　意欲・関心・態度　　60点
(2)　責任感・規範意識　30点
(3)　協調性・適応性　　30点
(4)　表現力・理解力　　30点

※作文については，1日目に実施する。

第　二　次　募　集（　選　抜　方　法　等　）

Ⅰ　配点
1　調査書　　220点
・　国語，数学，社会，英語，理科・・・・・・・1，2年の評定を1．0倍にし，3年の評定を2．0倍にする
・　音楽，美術，保健体育，技術家庭・・・・全学年の評定を2．0倍にする
2　学力検査　300点
・　国語，数学，英語（各教科100点満点）
3　面接　　150点
合計　670点
Ⅱ　選抜方法
上記Ⅰを基に，総合的に審査し，選抜する。

面接・実技・作文

Ⅰ　面接
1　形態
個人面接
2　時間
15分程度
3　内容
一次募集の作文と同じ
4　観点
一次募集の作文と同じ

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
1	福島県立福島高等学校	全日制

【前期選抜】

特色選抜

大学科 小学科	募　集 定員枠	志願してほしい生徒像
普通科	５％ 程度	本校は、梅章のおしえ「清らかであれ、勉励せよ、世のためたれ」を教育の基本におき、高い理想と豊かな徳性を備え、広く深い知性と健やかな心身を持つ有為な人材を育成することを教育目標としている。 このことを踏まえ、本校の特色選抜においては、文武両道を実践できる以下の要件をすべて満たす生徒の出願を求める。 ①　中学時代の部活動等における顕著な実績を持ち、本校においてもそれらを継続して主導的に活動する明確で強い意思を持つ生徒。（募集する部活動等については本校募集要項に記載する。） ②　主体的自律的な学習態度を備え、中学校の教科の学習において優秀な成績を収め、本校においてより高度な学習に挑戦する生徒。 ③　様々な分野においてリーダーとなり、社会に貢献する意欲と実行力を持つ生徒。

選　抜　資　料

学　力　検　査	特色選抜志願理由書	調　査　書	特　色　面　接	特　色　検　査	選抜資料の満点	備　考
５教科とする。 学力検査の満点を 250 点とする。	本校への志望動機及び将来への抱負、高校生活で特に学びたいこと等について本人が記入する。特に、主体的に取り組もうとする部活動について、中学時代の部活動等の実績とともに具体的に記入する。	「各教科の学習の記録」は傾斜配点を実施し、音楽、美術、保健体育、技術・家庭の４教科の評定を２倍とし、195 点満点とする。「特別活動等の記録」と「長所・特技等の記録」は合わせて 55 点満点として、合計 250 点満点とする。	個人面接を実施する。 面接は段階評価する。	実施しない。	全体の満点は、500 点とする。	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
1	福島県立福島高等学校	全日制

一般選抜

大学科 小学科	募集定員	選　抜　資　料			学力検査と調査書の成績の比重	備　考
		学　力　検　査	調　査　書	一　般　面　接		
普通科	（２８０）	５教科とする。 傾斜配点を実施しない。 学力検査の満点を250点とする。	「各教科の学習の記録」は195点満点とし、「特別活動等の記録」は55点満点として、合計250点満点とする。	実施しない。	同等とする。	

【後期選抜】

大学科 小学科	選　抜　資　料			備　考
	調　査　書	面　　接	小論文（又は作文）	
普通科	「各教科の学習の記録」は135点満点とし、「特別活動等の記録」は55点満点として、合計190点満点とする。	個人面接を実施する。 面接の内容には、中学校における学習活動の成果を問う内容（数学）を含む。 面接については点数化し、30点満点とする。	小論文を実施する。 ある資料を読み、設問に対する自分の意見等をまとめる小論文とする。 小論文については点数化し、120点満点とする。	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
７５	福島県立ふたば未来学園高等学校	全日制

【前期選抜】

特色選抜

大学科 小学科	募　集 定員枠	志願してほしい生徒像
総合学科	３５％ 程度	本校は、建学の精神「変革者たれ」、校訓「自立」「協働」「創造」のもと、自らが新しい生き方、新しい地域、新しい価値の創造者となり、グローバルな視点で自らと社会を変革していく人材を育成することを教育目標としている。そのため、本校の特色選抜においては、本校トップアスリート系列の生徒としてスポーツを通してそれらを実現する生徒を求める。 具体的には、対象とするいずれかの競技種目で顕著な競技実績または高い能力を有し、その競技力を生かして自らの進路を切り拓き、トップアスリートや生涯スポーツ社会のリーダーとして社会を牽引しようとする生徒を求める。 対象競技種目：サッカー（男女）　野球（男）　レスリング（男女）　バドミントン（男女）

選　抜　資　料

学　力　検　査	特色選抜志願理由書	調　査　書	特　色　面　接	特　色　検　査	選抜資料の満点	備　考
５教科とする。 学力検査の満点を 250 点とする。	本校への志願動機及び将来への抱負・進路希望、その実現のためどのような高校生活を送りたいか等について本人が記入する。 また、大会の実績等について、具体的かつ正確に記入する。	「各教科の学習の記録」は 135 点満点、「特別活動等の記録」は 55 点満点とし、合計 190 点満点とする。	個人面接を実施する。 面接では、地域や世界で活躍しようとする意欲や本校で学ぶ適性等について確認する。 面接は段階評価する。	各種目ごとに実技試験を実施する。実技については 200 点満点とする。	全体の満点は 640 点とする。	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
７５	福島県立ふたば未来学園高等学校	全日制

一般選抜

大学科 小学科	募集定員	選　抜　資　料			学力検査と調査書の成績の比重	備　考
		学　力　検　査	調　査　書	一　般　面　接		
総合学科	（１６０）	５教科とする。 学力検査の満点を 250 点とする。	「各教科の学習の記録」は 195 点満点、「特別活動等の記録」は 55 点満点とし、合計 250 点満点とする。	全員に個人面接を実施する。 面接では、地域や世界で活躍しようとする意欲や本校で学ぶ適性等について確認する。 面接は段階評価する。 トップアスリート系列を志願する者には実技試験を実施する。 競技種目については別に指定する。 実技試験については、段階評価する。	同等とする。	

【後期選抜】

大学科 小学科	選　抜　資　料			備　考
	調　査　書	面　　接	小論文（又は作文）	
総合学科	「各教科の学習の記録」は 135 点満点、「特別活動等の記録」は 55 点満点とし、合計 190 点満点とする。	全員に個人面接を実施する。 面接では本校で学ぶ適性等について確認する。 面接は段階評価する。 トップアスリート系列を志願する者には実技試験を実施する。 競技種目については別に指定する。 実技試験については、段階評価する。	思考力、判断力、表現力等を問う小論文を実施する。 字数は 400 字程度とし、50 点満点とする。	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
３３	福島県立白河実業高等学校	全日制

【前期選抜】

特色選抜

大学科 小学科	募　集 定員枠	志願してほしい生徒像
農業科 農業科 工業科 機械科 電気科 電子科 商業科 情報ビジネス科	５％ 程度	本校は、農業、工業、商業の３大学科、５小学科を持つ、西白河地区唯一の専門高校である。それぞれの学科において、将来、専門的な知識・技術を生かし地域社会に貢献できるスペシャリストの育成を目指し、全ての生徒に各専門分野での基礎・基本の定着を図ることを目的として教育を行っており、次のような生徒を求めている。 学習成績が優良であり、スポーツ活動の実績または優れた資質を有し、入学後も継続して活動することを確約できる者。ただし、募集する部活動については別に定める。 （各科共通）

選　抜　資　料

学　力　検　査	特色選抜志願理由書	調　査　書	特　色　面　接	特　色　検　査	選抜資料の満点	備　考
５教科とする。 合計 250 点満点とする。 （各科共通）	本校の当該学科への志望動機及び将来への抱負、高校生活で特に学びたいこと等について本人が記入する。 （各科共通）	「各教科の学習の記録」は 135 点満点とし、「特別活動等の記録」は 55 点満点として、合計 190 点満点とする。 （各科共通）	個人面接を実施する。 面接については、点数化し、30 点満点とする。 （各科共通）	実技を実施する。実技については、各種技能や基本的な身体能力をみる。実技については 30 点満点とする。 （各科共通）	全体の満点は 500 点とする。	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
３３	福島県立白河実業高等学校	全日制

一般選抜

大学科 小学科	募集定員	選　抜　資　料			学力検査と調査書の成績の比重	備　考
		学　力　検　査	調　査　書	一　般　面　接		
農業科 農業科 工業科 機械科 電気科 電子科 商業科 情報ビジネス科	（４０） （８０） （４０） （４０） （４０）	５教科とする。 合計 250 点満点とする。 （各科共通）	「各教科の学習の記録」は 195 点満点とし、「特別活動等の記録」は 55 点満点として、合計 250 点満点とする。 （各科共通）	集団面接を実施する。 志願者の適性と目的意識を確認するとともに、表現力についてみる。 面接については、段階評価する。 （各科共通）	同等とする。 （各科共通）	

【後期選抜】

大学科 小学科	選　抜　資　料			備　考
	調　査　書	面　　接	小論文（又は作文）	
農業科 農業科 工業科 機械科 電気科 電子科 商業科 情報ビジネス科	「各教科の学習の記録」は 135 点満点とし、「特別活動等の記録」は 55 点満点として、合計 190 点満点とする。 （各科共通）	個人面接を実施する。 面接の内容には、中学校における学習活動の成果を問う内容（国語、社会、数学、理科、英語）を含む。 面接については、点数化し、45 点満点とする。 （各科共通）	作文を実施する。 あるテーマについて、自分の感想や思いを述べる 600 字程度の作文とする。 作文については、点数化し、30 点満点とする。 （各科共通）	

令和４年度福島県立高等学校入学者選抜における選抜方法

別紙２

【調査票】

学校番号	学　校　名	課　　程
７５	福島県立ふたば未来学園高等学校	全日制

【連携型選抜】

大学科 小学科	募　集 定員枠	選　抜　資　料					備　考
		学　力　検　査	調　査　書	連　携　型　面　接	連　携　型　検　査	選抜資料の満点	
総合学科	３０％ 程度	５教科とする。 学力検査の満点を250点とする。	「各教科の学習の記録」は傾斜配点を実施し、国語、社会、数学、理科、英語の教科の評定を 2 倍することとし、210点満点とする。「特別活動等の記録」は55点満点として、合計265点満点とする。	個人面接を実施する。 面接では、地域や世界で活躍しようとする意欲や本校で学ぶ適性等について確認する。 面接は段階評価する。 ※志願理由書 すべての志願者は、本校所定の様式による志願理由書を作成し提出する。 志願理由書には、本校への志願動機及び入学後の希望系列、将来への抱負・進路希望、その実現のためどのような高校生活を送りたいか等について本人が記入する。 また、大会・コンクールの実績等について、具体的かつ正確に記入する。	トップアスリート系列の志願者については各種目ごとに実技試験を実施する。実技については200点満点とする。 ただし、ＪＦＡアカデミー福島に該当する者は、実技試験を免除する。	全体の満点はアカデミック系列の志願者が515点、トップアスリート系列の志願者が715点、スペシャリスト系列の志願者が515点とする。	

参考資料３

平成２７年度以降の県立高校入試の改善について

（提　言）

平成２３年１２月１２日

県立高校入試改善検討委員会

目　　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅰ　現行入試制度の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　1　実施までの経緯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　2　選抜方法（抜粋）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
　3　各検査の配点、調査書の教科の評定換算点・・・・・・・・・・・・・・・　4
　4　日程及び検査内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
　5　通学区域　・・・・・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

Ⅱ　現行入試制度に係る成果と課題及び主な要望・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　1　成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　2　課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　3　主な要望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

Ⅲ　平成２７年度以降の県立高校入試に向けた改善・・・・・・・・・・・・・・・　8
　1　改善に向けての考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　2　推薦入試の在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
　3　一般入試の在り方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
　4　その他の入試に係る事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

＜資料１＞　（県立高校入試改善検討委員会設置要綱）　・・・・・・・・・・・・１２
＜資料２＞　（県立高校入試改善検討委員会委員名簿）　・・・・・・・・・・・・１３
＜資料３＞　（県立高校入試改善検討委員会審議経過）　・・・・・・・・・・・・１４

はじめに

現行の入学者選抜制度（以下、入試制度）は、「生徒一人一人が、その多様な能力・適性や意欲・関心に基づいて自分の進路希望を実現するため適切な高校の選択ができること」、「各高校が特色づくりを進めその特色にふさわしい生徒を選抜し、生徒の成長を支援すること」という二つの基本的な視点を踏まえ、平成１６年度入試から実施され、平成２３年度入試で８年が経過している。この間、平成１９年度入試から、特色ある学校づくりを推進するため、各校が求める生徒像や推薦基準を明確にした「推薦入学者選抜の導入」などの一部改善を行ったが、少子化、情報化、国際化等、急速に進む社会の変化に合わせた更なる見直しが必要となっている。

平成２１年９月に第２次県立高等学校長期構想検討委員会により報告された「今後の県立高等学校の在り方について」には、入試制度について、「今後、中学校及び高校双方の視点から現行の入学者選抜制度における課題を明らかにし、高校の教育活動の充実に向けた、より良い入学者選抜制度となるよう検討する必要がある。」と記されており、県教育委員会は、この報告に基づき、現行の入試制度の問題点及び改善点を検討することを目的とした「県立高校入試改善検討委員会」を平成２２年６月２５日に設置した。本委員会は、平成２３年１１月８日までに６回の会議を開催し、「推薦入試の在り方」、「一般入試の在り方」、「その他の入試に係る事項」について検討を進めてきた。

本委員会は、これまでの会議において検討してきた内容を取りまとめ、ここに「平成２７年度以降の県立高校入試の改善について」と題して、提言することとした。

この提言の趣旨を踏まえ、県教育委員会においては、可能な限り迅速に、県立高校の入試制度の改善に取り組むことを望むものである。

Ⅰ 現行入試制度の概要

１ 実施までの経緯

県教育委員会は、「岩手県公立高等学校入学者選抜の在り方に関する調査研究委員会（平成１０年１１月設置）」の報告に基づいて平成１２年６月に「岩手県立高等学校入学者選抜方策検討委員会」を設置し、近年の社会や生徒の変化に対応した望ましい県立高等学校入学者選抜制度の在り方について検討を行った。

同検討委員会は、前述の調査研究委員会報告が示した基本方針を踏まえ、入学者選抜の基本理念、選抜の方法、通学区域や学区外許容率について検討を進め、平成１３年８月、教育長に対し、「これからの高等学校入学者選抜の方向性について（報告）」を提出した。

県教育委員会は、本報告の方向性に即して入試制度を改善し、平成１６年度入試を実施した。実施から３年を経過するまでは、基本的に変更しないこととしてスタートし、その後、改善すべきところがあれば検討することとしていたが、この間、県中学校長会や県高等学校長協会をはじめ、各方面の方々から推薦入試や学区、再募集の在り方等について様々な意見や要望が県教育委員会に寄せられた。

平成１７年９月２０日、県教育委員会は、入試制度の問題点及び改善点を検討することを目的とした「県立高校入試改善検討委員会」を設置して、「推薦入試の在り方」、「通学区域の在り方」、「その他の入試に係る事項」について検討を重ね、平成１８年６月１日に「平成１９年度以降の県立高校入試の改善について」の提言を行った。

現行の入学者選抜制度は、上記提言の方向性に即して、平成１９年度から「推薦入学者選抜の導入」などの一部改善を行い、５年が経過している。

２ 選抜方法（抜粋）

【推薦入学者選抜】

応募・出願

岩手県内の中学校若しくは特別支援学校中学部を当該年度に卒業する見込みの者又は前年度に卒業した者で、当該高等学校に合格した場合、入学を確約できる者とする。

(1) 対象学科

全日制･定時制の全学科において実施することができる。

(2) 応募資格

スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収め、当該高等学校の教育を受け

るに足る能力・適性を持ち、各高等学校の示す推薦基準を満たしている者とする。

(3) 募集定員

定員の１０％以内とする。ただし、体育科、体育コース、体育学系、スポーツ健康科学学系及び芸術学系については、５０％以内とする。

(4) 通学区域

学区の制約を受けないものとする。

(5) 出願手続き（提出書類）

ア　推薦入学願書

イ　志願理由書

ウ　推薦書

エ　調査書

オ　健康診断票の写し（体育、体育コース、体育学系等の志願者のみ）

カ　適性検査実技選択調査書（不来方高等学校芸術学系音楽コース志願者のみ）

検査内容

(1) 調査書、志願理由書及び面接

(2) 高等学校によっては、小論文又は作文、適性検査を実施することができる。

【一般入学者選抜】

応募資格

当該年度に中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業する見込みの者、中学校を卒業した者、学校教育法施行規則第９５条の規定に該当する者とする。

検査内容

(1) 学力検査（国語、数学、社会、英語、理科の５教科）

(2) 調査書

(3) 面接

(4) 小論文又は作文、適性検査

高等学校によっては、小論文又は作文、適性検査を実施することができる。

選抜方法

各高校においては、以下の【Ａ選考】、【Ｂ選考】、【Ｃ選考】の順に選考を進める。

【Ａ選考】（学力検査と調査書・面接等を５：４に取り扱い、選考する。）

ア　学力検査：調査書・面接等…５：４（固定）とする。

イ　普通科（外国語学系、国際科学学系を除く）普通・理数科以外の学科においては、【Ａ選考】で学力検査に傾斜配点を導入することができる。

【Ｂ選考】（調査書・面接等を重視して選考する。）

学力検査：調査書・面接等…３：７、２：８、１：９のいずれかとする。

【Ｃ選考】（学力検査を重視して選考する。）

学力検査：調査書・面接等…７：３、８：２、９：１のいずれかとする。

※【Ａ選考】、【Ｂ選考】、【Ｃ選考】の各選考割合については、各高等学校長が次の表の７通りの中から選択・決定することとする。

選抜方法		【Ａ選考】	【Ｂ選考】	【Ｃ選考】
選　考　割　合	（１）	募集定員の５０％	募集定員の４０％	募集定員の１０％
	（２）	〃　５０％	〃　３０％	〃　２０％
	（３）	〃　６０％	〃　３０％	〃　１０％
	（４）	〃　６０％	〃　２０％	〃　２０％
	（５）	〃　７０％	〃　２０％	〃　１０％
	（６）	〃　７０％	〃　１０％	〃　２０％
	（７）	〃　８０％	〃　１０％	〃　１０％
「学力検査の成績」と「調査書の学習の記録、特別活動の記録等を踏まえた面接、小論文又は作文及び適性検査の評価」との比率		学力検査：調査書・面接等	学力検査：調査書・面接等	学力検査：調査書・面接等
		５：４（固定）	３：７ ２：８ １：９	７：３ ８：２ ９：１

・第１志望の受検者で募集定員が充足しない場合は、第２志望から選抜する。同様に、第２志望の受検者でも定員が充足しない場合は、第３志望から選抜する。

・不正行為や検査場への携帯電話等の持ち込みがあった場合には、不合格とする。

３　各検査の配点、調査書の教科の評定換算点

入学者の選抜は、学力検査の成績と調査書、面接、小論文等の評価の合計によるものとし、各検査の配点や調査書の教科の評定換算点は、以下のとおりとする。

(1) 各検査の配点内訳

<table>
<tr><td>学力検査（５教科各１００点満点）</td><td colspan="2">５００点</td><td rowspan="5">９００点</td></tr>
<tr><td>調査書（９教科の２・３年生の評定）</td><td>３３０点</td><td rowspan="4">４００点</td></tr>
<tr><td>面接（自己ｱﾋﾟｰﾙｶｰﾄﾞ及び調査書を踏まえて実施）</td><td rowspan="3">７０点</td></tr>
<tr><td>小論文又は作文（実施は各高校で決定）</td></tr>
<tr><td>適性検査（実技等）（実施は各高校で決定）</td></tr>
</table>

(2) 調査書の２・３年生の教科の評定換算点（評定が全て５の場合の例）

教科		国語	社会	数学	理科	英語	音楽	美術	保体	技・家	合計
調査書	２年	10	10	10	10	10	15	15	15	15	３３０点
	３年	20	20	20	20	20	30	30	30	30	

４ 日程及び検査内容

（集合時間）８：３０			
教　科	時　間	教　科	時　間
国　語	8:50 ～ 9:40	英　語	12:35～13:25
数　学	9:55 ～10:45	理　科	13:40～14:30
社　会	11:00 ～11:50	面　接	
（　昼　食　）		（小論文又は作文、適性検査）	

５ 通学区域

本県の学区

本県では、「岩手県立高等学校の通学区域に関する規則」により全日制課程の普通科及び理数科に学区が定められている。

学区とは、特定の高校への入学志願者の過度の集中を避け、高校教育の機会均等を図り、生徒の就学、通学の適正化を図るため、就学希望者が就学すべき高校を指定した区域である。

現行学区は８学区である。

①　盛岡学区　②　岩手中部学区　③　胆江学区　④　両磐学区

⑤　気仙・釜石学区　⑥　宮古学区　⑦　久慈学区　⑧　二戸学区

Ⅱ 現行入試制度に係る成果と課題及び主な要望

これまで現行制度（平成１９年度以降）による入試を５回実施しているが、県教育委員会では、現行入試制度に係る成果と課題及び各高等学校・県高等学校長協会・県中学校長会等からの意見・要望を次のようにまとめている。

１ 成果

(1) 推薦入試（選抜内容・方法）について

特色ある学校づくりを進める意味で、推薦入試を導入したことは、各高校において大きな効果があり、部活動の活性化にもつながった。

個々の生徒の能力は、多岐にわたっており、各生徒が自分の個性、意欲等を主体的に表現できる推薦入試は、教育上好ましいものである。

(2) 一般入試（選抜内容・方法）について

各高校の裁量により、ＡＢＣ選考の割合の決定や小論文又は作文、適性検査を実施できることとする等、選抜内容・方法の多様化を図ったことで、それぞれの学校・学科・コース等の特性に応じた特色づくりが図られた。

(3) 面接について

志願者全員に課す面接を実施したことにより、志願者一人ひとりについて、それぞれの学校・学科・コース等の特性に応じて必要とされる資質や能力・適性、学習に取り組む姿勢、意欲・関心等をより適切に審査・評価できるようになった。

また、自己アピールカードや調査書を十分活用することで、生徒の意欲・関心等をより客観化でき、併せて、各高校の特色化を推進できた。

(4) その他

ア　平成１６年度より入試事務運用管理システム（入試処理ソフト）を導入し、その後、改善を重ねてきたことにより、現在に至るまでに事務処理の迅速化が図られてきた。

イ　平成１９年度入試から普通科と理数科の一括募集（以下、くくり募集）を導入し、入学後、１年間かけてガイダンスを行って普通科と理数科を決定している。ガイダンスを通して学科への理解を深めた上で決定することにより、理数科の活性化につながった。

２ 課題

(1) 推薦入試（選抜内容・方法）について

ア　スポーツ、文化・芸術等の活動実績はあるものの、基礎学力が備わっていない生徒及び学習意欲に乏しい生徒が入学する可能性がある。

イ　応募資格に、「当該高等学校の教育を受けるに足る能力・適性を持ち」との記載があり、その中には当然、良好な授業態度、生活態度等を含むものであるが、スポーツ、文化・芸術等の活動実績ばかりが強調されている実態もある。現行制度で、高等学校長が中学校長に推薦書の提出を求めている以上、人物評価についても応募資格として厳然と審査する必要がある。

ウ　中学校における授業時間を確保する観点から、推薦入試の実施時期を見直す必要がある。

(2) 一般入試（選抜内容・方法）について

ア　ＡＢＣ選考については、選抜内容・方法の多様化が図られる反面、高校裁量の余地が少ないため、特色ある学校づくりが推進しにくい面もある。

イ　受検倍率の低い学校では、ＡＢＣ選考が完全に実施されない可能性がある。

ウ　これまでの推薦入試に代わるものとしてＢ選考による選抜を実施したが、その代替となっていない面もある。

(3) 調査書について

１年生から意欲的な学校生活を送っている生徒を評価できるように、他県の多くは１年生の「学習の記録」の評定を換算して配点に加えているが、本県においても調査書の換算点の在り方について検討する必要がある。

(4) 面接について

短時間で行われる面接の点数化は難しい面もあり、点数化の有無は学校裁量で行いたいという声がある。

(5) 再募集について

再募集を実施するに当たって、地域性や学校種への配慮・検討を求める声がある。

３ 主な要望

(1) 推薦入試における応募資格、推薦基準、実施時期等の検討及び学力向上の推進

(2) ＡＢＣ選考の順序や各選考の採否等、学校裁量の拡大

(3) 調査書の教科の評定換算点に１年生も加算

(4) 定時制高校の入試方法の検討、特に成人枠の採用

(5) 再募集実施の有無の明確化

Ⅲ 平成２７年度以降の県立高校入試に向けた改善

１ 改善に向けての考え方

本検討委員会としては、現行の入試制度の基になっている「これからの高等学校入学者選抜の方向性について（報告）」（平成１３年８月２９日）並びに、「平成１９年度以降の県立高校入試の改善について（提言）」（平成１８年６月１日）の趣旨に基づきながら、何よりも受検生にとって適切な入試制度になるよう、特に課題や要望の大きかった「推薦入試の在り方」と「一般入試の在り方」について重点的に審議し、「その他の入試に係る事項」についても今後の改善の方向性を検討した。

２ 推薦入試の在り方

平成１６年度から１８年度入試までは、旧入試制度の推薦入試に代わるものとして、Ｂ選考が実施されたところであるが、その代替になっていないとする意見が、ほとんどであったため、平成１９年度より推薦入試を導入した。その後、推薦入試についてのアンケート調査（中学校長、高等学校長）を実施し、概ね現行どおりの実施でよい旨の結果を得ているが、下記についての改善案を提示したい。

(1) 平成１９年度入試から、特に県内各高校において、スポーツ、文化・芸術等に秀でた生徒を育成し、本県の競技力等の向上を図っていくため推薦入試が復活したが、スポーツ、文化・芸術等以外でも、将来の職業に生かそうという目的意識をもって入学を希望する農業の後継者や工業関係の技術者養成等のための推薦入試を実施してほしいとの要請もある。

> **特色ある学校づくりを推進する意味からも推薦入試は継続すべきであり、スポーツ、文化・芸術等において顕著な成績を収めた者を対象とすることが望ましい。応募資格については、将来の職業に生かそうという目的意識をもって入学を希望する者も対象とできるよう、学校裁量の拡大を図る必要がある。**

(2) 平成１６年度入試の目的の一つは、「学力向上」にあり、志願者全員に学力検査を課した。しかし、平成１９年度に推薦入試が導入されて以後、推薦入試に学力検査が課せられないことから、高校入学後の学力低下を招いているとの指摘がある。また、推薦入試の時期が早いことから、合格者の学習意欲の低下や卒業までの過ごし方なども問われている。

> **推薦入試合格（内定）者に対して、学力検査問題を活用した学力調査を実施する必要がある。推薦入試合格（内定）者が学力調査に向け学習に意欲的に取り組むことは、高校教育を受けるに足る能力・適性を更に磨くことにもつながり、高校入学までの期間を有意義に過ごすことになると考える。**

(3) 中学校長は当該高校が提示したスポーツや文化・芸術、農業後継者や工業技術者等の推薦基準を確認する必要があるが、その前提として、能力・適性、授業態度、生活態度を基本にした上での推薦入学制度であることが望ましい。また、学校推薦であることを明確化する必要がある。

各中学校は、推薦を希望する生徒について、授業態度や生活態度にも優れ、良好な高校生活ができる生徒であるかを判断した上で、当該高校が示す推薦基準に合致しているかを確認し、中学校長が学校推薦として推薦を決定する必要がある。

(4) 推薦入試に関する事務手続きについては、年明け早々であるため、時間的なゆとりがないまま手続きを行わなければならない。推薦入試の実施時期等についての検討が望ましい。

一週間程度「出願期間」「選抜実施」を繰り下げて、実施することが適当である。

３ 一般入試の在り方

(1) 各高校の特色化の推進と、異なる評価尺度によって生徒を多面的に評価しようとするＡＢＣ選考であるが、現行入試制度では学校裁量の部分が少なく、各高校の特色化を推進しにくい面もある

ＡＢＣ選考の採択、順序については、各高校の裁量を拡大して実施することで、特色ある学校づくりを更に推進できる、という意見が多く寄せられている。

また、これまで推薦入試に代わるものとしてＢ選考による選抜を導入したものの、その代替になっていないという声が多かったため、推薦入試が復活した経緯がある。

各高校において、特色ある学校づくりを進めるために、次の基準で各校がＡＢＣ選考を採択できるよう検討する必要がある。 （ア）「Ａ選考」は、必ず採択し、最初の選考方法に用いる。 （イ）「Ｂ選考」、「Ｃ選考」の採否及び順序については、学校裁量とする。

(2) 他県では、定時制高校において成人枠を設けた入試制度がある。中学校を卒業してから年数を経ると教科の受検にためらいを感じ、向学心があっても応募しない成人がいると考えられる。そのような成人に高校教育の機会を与えるため、選抜方法を検討する必要がある。

定時制高校において、中学校を卒業して数年後に受ける高校入試は、受検生にとっては相当に高い壁となっている。中学卒業後の学習機会の保証や選抜方法の多様化、評価尺度の多元化の観点から「面接」、「小論文」、「適性検査」等での受検を検討する必要がある。

４ その他の入試に係る事項

(1) 調査書について

東北６県では４県が中学校１年生の評定を調査書に加えており、全国的にもこの傾向が強い。将来を見据えて意欲的に学習に取り組む態度を早期から育成するためにも、調査書の評定に中学校１年生も加えることが望ましい。

調査書を活用して、中学校の教育活動を入学者選抜に一層反映させるとともに中学生が入学時から将来を見据え、充実した学校生活を送るために、部活動のみならず学習活動においても意欲的かつ計画的に臨む必要がある。そのためにも調査書の教科の評定換算点に１年生の評定を加えるなど、換算点の在り方について検討する必要がある。

(2) 面接について

特に大きな問題点もないため、現行どおりで実施する。

(3) 再募集について

平成１６年度から１８年度の再募集については、一般入試の合格者が一人でも募集定員に達しなかった場合に必ず実施することが義務づけられていた。しかし、実施校における負担が大きかったため、平成１９年度より「欠員が、概ね１０％より多い高等学校はその学科別に再募集を行うことができる」こととし、学校裁量がある程度認められた。しかし、基準が曖昧なため、中学校側が再募集の有無を判断しかねる、との声が寄せられている。

欠員が１０％より多い高校はその学科別に必ず実施することとし、併せて１０％未満の学校でも実施できるように学校裁量の余地を残す方向で検討する必要がある。

なお、「再募集」の名称については「二次募集」とすることが適当である。

(4) 特別な支援を必要とする生徒に対する配慮や支援について

多様な生徒が高校に入学する現在、高校における特別支援教育が必要不可欠となっており、組織的な取り組みも行われているが、中学校との連携を更に推進していく必要がある。

高校における特別支援教育の組織的取り組みが行われている中で、中学校と高校が共通理解を図り、入学者選抜における特別な支援を必要とする生徒への配慮や支援の在り方について検討していく必要がある。

(5) 不測の事態への対応について

平成２２度入試においては、新型インフルエンザの流行に伴い、感染の拡大を防止するとともに感染が疑われる生徒の受検機会を確保するという対応を迫られた。また、平成２３年３月１１日の東日本大震災津波の発生を受け、これまでの危機管理体制を見直し、各学校での地震や津波等への体制づくりを推進させる必要がある。

様々なケースに対応した「不測の事態に対する危機管理体制」をこれまで以上に整える必要がある。地震や津波等に対する体制づくりについては、より詳細なマニュアルの作成を各学校に求める必要がある。

(6) その他

上記以外にも課題や要望が出ていた項目については、今後、県教育委員会で十分に検討し、改善することが望まれる。

資料　1

県立高校入試改善検討委員会設置要綱

（設置）

第１　社会や生徒の変化に対応するとともに各県立高校の教育活動の充実に向けたより良い入学者選抜制度について検討するため、県立高校入試改善検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事項）

第２　委員会は、次に掲げる事項を審議する。

（１）現行の推薦入学者選抜、連携型入学者選抜、一般入学者選抜、再募集入学者選抜の選抜形態の在り方、日程等

（２）Ａ・Ｂ・Ｃ選考等の選考方法

（３）特色ある学科の推薦入試の在り方

（４）定時制高校及び定時制課程の入試の在り方

（５）特別な支援を要する生徒に対する配慮や支援等

（６）新型インフルエンザ等不測の事態への対応

（７）その他県立高校入学者選抜制度に係る事項

（組織）

第３　委員会は、委員２１名以内をもって組織する。

２　　委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

（１）学識経験者

（２）産業界等関係者

（３）県立学校及び中学校関係者

（４）ＰＴＡ関係者

（５）教育委員会関係者

（任期）

第４　委員の任期は、２年以内とする。

（委員長、副委員長）

第５　委員会に、委員長及び副委員長各１名を置く。

２　委員長は、委員の互選により選出する。

３　副委員長は、委員長が指名する。

４　委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

５　委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

（会議の招集）

第６　委員会は、必要に応じて委員長が招集する。

（庶務）

第７　委員会の庶務は、岩手県教育委員会事務局学校教育室において処理する。

附　則

１　この要綱は、平成２２年６月２５日から平成２４年６月２４日まで施行する。

２　平成１７年９月７日決裁の、県立高校入試改善検討委員会設置要綱は廃止する

資料 2

県立高校入試改善検討委員会委員名簿

（敬称略）

	所　　属	役　職	氏　名	備　　考
1	盛岡大学	学　長	望月　善次	委員長
2	徳島大学	教　授	玉　真之介	副委員長（前岩手大学教授）
3	株式会社ＩＢＣ岩手放送	取締役会長	阿部　正樹	産業教育振興会会長
4	谷村電気精機株式会社	代表取締役会長	谷村　久興	
5	岩手県立盛岡第一高等学校	校　長	高橋　和雄	岩手県高等学校長協会会長
6	岩手県立花北青雲高等学校	校　長	在原　　眞	
7	岩手県立紫波総合高等学校	校　長	坂本　　晋	
8	岩手県立杜陵高等学校	校　長	清水　輝男	
9	岩手県立みたけ支援学校	校　長	東　　信之	
10	盛岡市立松園中学校	校　長	玉川　英喜	岩手県中学校長協会会長
11	北上市立和賀東中学校	校　長	川村　庸子	
12	二戸市立福岡中学校	校　長	嵯峨　　進	
13	宮古市立第一中学校	校　長	伊藤　晃二	
14	県高等学校ＰＴＡ連合会	会　長	松尾　正弘	
15	県ＰＴＡ連合会	会　長	米澤　慎悦	
16	県ＰＴＡ連合会	副会長	大戸　　浩	
17	県ＰＴＡ連合会	理　事	北野澤純一	
18	金ケ崎町教育委員会	教育委員長	及川紀美子	
19	二戸市教育委員会	教育長	鳩岡　矩雄	
20	陸前高田市教育委員会	教育委員長	横田　祐佶	
21	釜石市教育委員会	教育長	川崎　一弘	

平成２３年１２月１２日現在

資料 ３

県立高校入試改善検討委員会審議経過

	開　　催　　日	審　議　事　項
第１回	平成２２年　６月２５日（金）	・委員長及び副委員長選出 ・設置要項及び現行入試制度 ・現行入試制度の成果と課題
第２回	平成２２年　８月３０日（月）	・一般入試の在り方 ・定時制入試の在り方
第３回	平成２２年１２月２４日（金）	・推薦入試の在り方 ・特別な支援を要する生徒に対する配慮や支援等
第４回	平成２３年　６月２４日（金）	・連携型入試の在り方 ・再募集 ・不測の事態への対応
第５回	平成２３年　８月３０日（火）	総合検討①（提言案）
	平成２３年　９月　８日（木） ～１０月２０日（木）	パブリックコメント（提言案）
第６回	平成２３年１１月　８日（火）	総合検討②（提言案）